

●スピアフィッシングの装備



【ウエットスーツ、グローブ、シューズ】

水温が高い時期に、水遊び感覚で楽しむのであれば、速乾性のシャツやパンツを着るだけでもいいが、安全を確保するためにウエットスーツの着用をお勧めする。浮力があるため、水中でトラブルが起きたときに、ウエイトを外すことで、浮上が楽になるというメリットもある。ウエットスーツは、上下セパレートのフルスーツがお勧め。グローブは、手のひらがしなやかで丈夫な素材でできたものを選ぶといい。フィンを履く際は、マリンブーツとの併用が基本。フィンと同時に入手しておこう。



【水中マスク、シュノーケル】

ともに、素潜り用の一般的なもので十分に対応可能。水中マスクには、1眼と2眼のものがあるが、2眼のほうが容量・面積が小さいため、潜る際の抵抗や、掛かってくる水圧が抑えられる。



【ウエイト、ダイビングナイフ】

ウエイトは、自分の体重の10%を目安にする。いざというときに外せる、バックルが付いたベルトに付け、腰に装着する。ベルトにはダイビングナイフもセット。ナイフは錆びない素材でできた物を選ぼう。



【フィン】

ビギナーはシュノーケリング用の柔らかいフィンでも十分。本格的に始めるなら、推進力が高い、ダイビング用のフィンを手入れしよう。体力に合った硬さや面積のものを選ぶのが、疲れを軽減するコツ。



【水中ライト】

岩場の陰などを探るときや、トラブルがあったときに、周囲に異変を伝えるためにも使われる。防水性が高く、衝撃にも強いダイビング用のライトがお勧めだ。なお、夜突きは全国的に禁止されている。

●ウエットスーツの選び方



ウエットスーツのネオプレン生地は、厚さ1.5mm、3mm、5mmと各種ある。厚手のほうが保温性も保護性も高いが、暑過ぎて体調を崩すこともあるので、季節に合った厚さのものを選ぶことが大切だ。

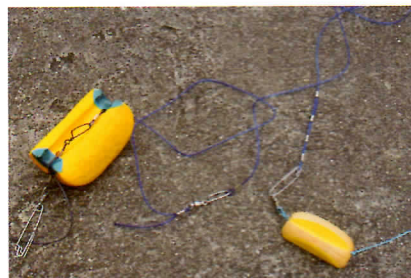
スピアフィッシングの道具

スピアフィッシングには、手錠のほか、水中マスク、シュノーケル、フィン（足ヒレ）の「3点セット」が最低限必要だ。さらに、ウエットスーツをはじめとして、必要な道具がいくつかある。

【3点セット】

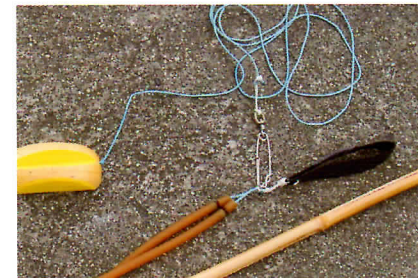
水中マスクは、顔にフィットしないと水が浸入してくることがあるので、ショップで顔に合わせたり、仲間のを借りたり

●フロートを用意する



【フロートの仕組み】

小島氏が使うフロートのシステム。左の大型のフロートを水面に浮かせる。右の小型フロートは、水中の紐に張りをもたせるためのものだ。



【フロートのセット方法】

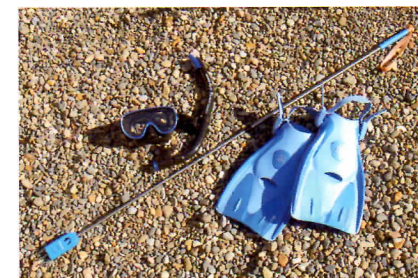
フロートの先端は、手元のゴムに接続するのが一般的。ただし、相手が大型の場合は、魚にゴムが引っ張られて切れると飛んでくるので接続しない。

して、様子を見てから購入する。シュノーケルは、ごく一般的なものでいいが、排水弁が付いているものや、パイプの上端に水が浸入しにくい工夫がなされたものなどであれば、いうことはない。

これらの使用にあたっては、水中マスクに水が浸入したときに行う「マスクブロー」や、シュノーケル内に水が入り込んだときに排水する方法、耳の中の圧力を調整する「耳抜き」を、必ず身に付けておこう。

素早く泳ぎ、潜り、浮上するために、フィンは必要不可欠だ。流れが少しあるだけ

●手軽な道具で始める



海辺の釣具店で売られているヤスに、水中メガネ、シュノーケル、フィンの3点セットがあれば、魚突きを楽しむことは可能だ。まずは体験してみよう。